

## 《単位互換提供科目詳細》

\* 科目 No. 1108

## 科目概要記入欄

1. 開設大学名	広島経済大学		科目開講 キャンパス	本学		
2. 科目名	正式科目名	電子金融取引 I			クラス名	
	副題	情報技術と決済システムの基礎に ついて学ぶ			配当年次	3
	旧科目名				受入学年	3年以上
	学問分野	番号	27	名称	社会科学系, その他	
	サテライトで開講される科目の科目群		A 群	B 群		
3. 担当教員名	久保 大支・ビジネス情報・助教					
4. 単位数	2 単位		5. 開講学期	前期		
6. 開講期間 曜日・時間	2017 年 4 月 11 日 (火) ~ 2017 年 7 月 18 日 (火) 火曜日 9:00 ~ 10:30					
個別開講日	1 回目 4/11	2 回目 4/18	3 回目 4/25	4 回目 5/2	5 回目 5/9	6 回目 5/16
	7 回目 5/23	8 回目 5/30	9 回目 6/6	10 回目 6/13	11 回目 6/20	12 回目 6/27
	13 回目 7/4	14 回目 7/11	15 回目 7/18	16 回目	試験日	/
7. 基礎知識の有無	2. 「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数 (総授業定員)	制限なし (人)		9. 定員超過時の 選考方法	なし		
10. 科目内容・ 授業計画	<p>1. 到達目標</p> <p>本講義では, 電子金融取引のベースとなる金融理論と金融市場について基礎的な知識を修得します。</p> <p>2. 授業内容</p> <p>情報技術 (IT) 革命の進展は, 金融サービス・金融市場においても急速に様々な構造的変化をもたらしています。本講義では, このようなサービスや市場における電子的な取引について, 理論的な分析と実際のケーススタディの両面から考察するためのベースとなる基本的な金融理論, 金融知識について学修します。</p> <p>3. 授業計画</p> <p>第 01 回 Ch. 0 イン트로ダクション: 講義概説, 成績評価法, 目的と方法論 Ch. 1 貨幣と金融取引 (1): 経済主体と経済活動, 貨幣の起源 (rep. 1)</p> <p>第 02 回 Ch. 1 貨幣と金融取引 (2): 貨幣の機能, 金融取引の基礎概念 (rep. 2)</p> <p>第 03 回 Ch. 1 貨幣と金融取引 (3): 家計の金融行動 (rep. 3)</p> <p>第 04 回 Ch. 1 貨幣と金融取引 (4): 企業の金融行動, 市場均衡 Ch. 2 金融取引と不確実性 (1): リスクの存在とリスク下の金融行動</p> <p>第 05 回 Ch. 2 金融取引と不確実性 (2): 家計の資産選択問題 (rep. 4)</p> <p>第 06 回 Ch. 2 金融取引と不確実性 (3): 企業の資本構成問題 Ch. 3 金融市場と金融取引 (1): 金融市場の分類と機能の概要 (rep. 5)</p> <p>第 07 回 Ch. 3 金融市場と金融取引 (2): 短期金融市場と資本市場</p> <p>第 08 回 Ch. 3 金融市場と金融取引 (3): インターバンク市場, オープン市場 (rep. 6)</p>					

10. 科目内容・授業計画	<p>第 09 回 Ch. 4 決済システムと金融取引(1)：決済の定義，決済と決済システム  第 10 回 Ch. 4 決済システムと金融取引(2)：各種の決済手法  第 11 回 Ch. 4 決済システムと金融取引(3)：決済リスク (rep. 7)  第 12 回 Ch. 5 電子金融取引の現状と社会制度(1)：これまでの歴史と現状  第 13 回 Ch. 5 電子金融取引の現状と社会制度(2)：現在の法制度 (rep. 8)  第 14 回 Ch. 5 電子金融取引の現状と社会制度(3)：これからの制度の在り方，消費者保護とプライバシー  第 15 回 Ch. 5 電子金融取引の現状と社会制度(4)：とセキュリティ，電子署名 (rep. 9)</p> <p>4. 準備学習等の指示  毎回，講義内容を WORD で原則 A4 サイズ 1 枚にまとめた「講義のまとめ」を LMS を通して提出してもらいます。これにより，自分の中でその回の講義内容を整理してもらうことになります。  また，レポートを 9 回課します。これは講義のメイン資料に加え，トピック毎に提示するサブ資料にあたることで，より理解を深め，そのトピックに対して自分なりの考えを培ってもらうためのものです。  最後に，毎回講義の翌日には次回の講義内容を LMS に掲載します。「講義のまとめ」を提出する際に，併せてダウンロードし事前学修の上，講義に参加してください。原則としてプリントは配布しません。</p> <p>5. 教科書  テキストは使用しません。各回毎に LMS に講義資料を掲載します。</p> <p>6. 参考文献  ・ 岩原紳作(2003)，『電子決済と法』，有斐閣  ・ 釜江廣志・皆木健男(2011)，『金融・ファイナンス入門』，同文館出版  ・ 中島真志・宿輪純一(2013)，『決済システムのすべて(第 4 版)』，東洋経済</p>		
11. 試験・評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポートは，A=10 点，B=8 点，C=6 点（以上が合格），再提出（不合格）の 4 段階で評価します。</li> <li>・ 最終的な成績はレポート，小テスト：40%，定期試験（参照不可）：60%の比率で総合的に評価します。</li> <li>・ 以上にかかわらずレポート未提出（不合格含む）3 回以上で単位認定不能とします。</li> </ul>		
12. 別途負担費用	ありません。		
13. その他特記事項	ありません。		
14. サテライト科目の社会人受講について	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否